①環境教育と地域住民主体の環境保全活動を通した地域コミュニティの強化
②カトマンズの住民によるバグマティ川の汚染防止を通じた生活環境改善

■プロジェクト概要

場　所：ネパール
カトマンズ郡北部ジョルパティ地区・ボーダナート地区、ゴカルナ市

対象者：上記地区内の小中学校の生徒、環境教育担当の教員、生徒の保護者を含む地域住民
（事業①研修参加者のべ 249 人、事業②対象世帯 69 世帯、研修参加者のべ 585 人）

内　容：ネパールの首都カトマンズを流れるバグマティ川は、近年の急激な人口増加に伴い、大量のごみ投棄や排水の垂れ流しにより極端に汚染されています。行政だけに頼っていては解決できない問題に目を向け、失われたバグマティ川の再生のために、カトマンズの住民たち自ら「何をすべきか」を考え、地元の環境問題に取り組むためのサポートをしてきました。

2015 年 4 月の地震直後には緊急救援を実施しましたが、スタッフや活動地域の生活が落ち着いてきた 5 月下旬以降、これまでのプロジェクトを再開しました。
昨年度のデシェ村に続き、バスネット村で新たな分散型排水処理施設（DEWATS）を建設しました。利用する住民に対して、汚染のメカニズムや施設の維持管理に関する研修をおこないました。
昨年度に作成した環境副読本 “Bagmati ji: We Learn and Act With the Bagmati River” を、ムラのミライの研修を受けた学校を中心に約 4,800 冊配布。引き続き、学校での環境教育をサポートしました。副読本の配布をきっかけに、新たに川の課外授業に取り組む先生や、独自に環境教育の企画をする先生たちもいました。また、訪日プログラムに参加した先生が、地域住民を対象にしたゴミ分別研修を開催し、のべ 88 人が参加しました。

「近所のバグマティ川を観察しよう!」

ムラのミライの研修に参加してきたカルナ先生は、副読本を使った授業を開始。「近所のバグマティ川を見に行きたい!」という生徒の声を受け、川のハイキングを実施しました。学校から 5km の道のりをじっくり歩いて回り、川の周りの生き物を観察したり、川沿いにあるお寺を訪れたりしました。その後、生徒たちが「ゴミのポイ捨てをしないよう家族に話している」などの報告をしてくるようになったとカルナ先生は言います。

カルナ先生（画面右）

「生徒たちから保護者へ、ゴミ分別を広げたい」

訪日プログラムで出会った市民グループの話を聞き、「学校だけでなく地域へも川の浄化活動を広げていきたい」と考えたスミ先生。
その第一歩として、生徒のお母さんを含む、地域の女性たちを集め、ゴミ分別の研修をおこないました。スミ先生はこれまで、ムラのミライの研修を受けて、自分の家や学校でのゴミ分別や堆肥づくりなどに積極的に取り組んできました。今度は、地域を巻き込んだゴミ問題への取り組みを始めています。

スミ先生（画面左）

地域の女性たちと

「私たちがつくる、私たちの村の地図」

家庭排水を処理する DEWATS を維持管理していくためには、誰が?何人使う?ということを村人自身が調べて知ることが大切です。そこで、有志で集まった 8 人の女性たちが、村の世帯調査と地図作りに取り組みました。隣近所のことはよく知っているつもりのオバチャンたち。でも、実際にやってみると、「村を客観的に見ることができた」という声も。また、「自分たちでも地図を作って世帯調査ができた!」と嬉しいコメントも聞かれました。

村の地図

「自然エネルギーで初コラボレーション・企業 × ムラのミライ」

茨城県日立市の（株）茨城製作所（イバセイ）が開発した軽水力発電機 Cappa（カッパ）は、小川や水路に沈めるだけで発電します。イバセイは、海外の電力不足、災害時の電力供給にも対応するため、まずネパールを調査地に選びました。水流に入れるだけで発電する Cappa。
でも、川を流れるゴミ、堆積する泥や洪水は苦手です。だから、水、森、土をちゃんと維持するコミュニティの協力が必要なのです。ムラのミライは、Cappa を受け入れてくれそうなコミュニティを探し、デモンストレーションをするお手伝いをしました。そのとき、コミュニティの本気度を試すため、メタファシリテーションを使ったのは、言うまでもありません。Cappa とネパールの人たちとの暮らしが実現するかどうか今後の展開が期待されます。
Cappa についてはこちら→http://earthmilk.jp/top